

K-DARC FORUM 1st

Drug Addiction Rehabilitation Center

DARC

私たちが大切にしてきたこと

4.6 Sun.
2025

13:00 ~ 16:30

参加費無料 定員 200名

薬物依存という暗闇の中、40年もの間、希望の光を灯し続けてきたDARC。その道のりは、困難に立ち向かう人々に勇気を与え、社会の偏見という壁に挑み、誰もが自分らしく生きられる社会を目指してきました。

私たちはこれからも、地域社会との連携を深め、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指します。

K-DARCフォーラムは、新たな希望を灯すための第一歩です。共に、未来を創造しましょう。

主催

三重DARC、びわこDARC、京都DARC、木津川DARC、大阪DARC、堺DARC、神戸DARC、阪神DARC、奈良DARC、鳥取DARC、岡山DARC、徳島DARC、香川DARC、愛媛DARC、高知DARC、広島DARC、山口DARC

大阪市立西淀川区民会館ホール
大阪市西淀川区大和田2-5-7
阪神なんば線 福駅 徒歩約5分
お問合せ：0774-26-4151 (木津川DARC)

プログラム

13:00 総合司会 渡慶次 稔 (山口ダルク)
松村 明純 (香川ダルク女性ハウス)

13:15 スピーカー
宮本 容子 (高知ダルク)
猪瀬 健夫 (びわこダルク)
太田 実男 (京都ダルク)
千坂 雅浩 (鳥取ダルク)

14:20 休憩

14:30 シンポジウム

司会： 市川 岳仁 (三重ダルク)

シンポジスト

倉田 めば (大阪ダルク)
倉田 智恵 (大阪ダルク女性ホーム)
加藤 武士 (木津川ダルク)

16:00 各ダルクよりお知らせ

16:20 閉会のご挨拶

16:30 終了

シンポジスト紹介

市川岳仁

アディクション当事者。沖縄ダルクスタッフを経て、1999年、三重県津市に三重ダルク開設。型にハマらない、ハメられない、アディクトをハッピーにするアディクションに関心がある。名古屋市立大学人文社会学部非常勤講師。精神保健福祉士・保護司。立命館大学大学院人間科学研究科博士後期課程。

加藤武士

1965年生まれ、木津川ダルク代表、相楽保護区保護司、龍谷大学法学部非常勤講師。20代の頃に薬物依存症に苦しみ精神科病院の入退院を繰り返す。1994年に大阪ダルクに入寮し薬物依存からの回復を歩む。2003年に京都ダルク設立、2013年より木津川ダルク代表。薬物依存者の回復支援に尽力する傍ら、全国各地で講演活動や啓発活動を行っている。共著に『ダルク回復する依存者たち—その実践と多様な回復支援』がある。

倉田めば

大阪ダルクディレクター。14歳からアディクト。20代の終わりに、施設、セルフヘルプグループにたどり着く。ヤク中のモデルよりも、自傷のモデルの方がピッタリ当てはまる。自己破壊衝動は相変わらず出てくるが、12ステップの他、詩、パフォーマンス・アートなどの表現活動やタントラ瞑想によって危機をすり抜けている。最近、大阪ダルクが提供する「OD 倶楽部」のファシリテーターとして多忙な日々を送っている。

倉田智恵

1964年に大阪市にて出生。1985年、解毒治療後に自助グループのナルコティクスアノニマスへ通い始める。2004年に勤めていた会社を退職し、大阪市内に女性のための薬物リハビリ施設、大阪ダルク女性ホームを開設。